

苫小牧市教育委員会会議録

会議区分	苫小牧市教育委員会 第 2 回 定例委員会
日時	平成29年2月13日 自 14時00分 至 15時29分
場所	市役所本庁舎9階会議室
出席委員	教育長 和野 幸夫 委員 上原 毅 委員 佐藤 郁子 委員 佐藤 守 委員 植木 忠夫
欠席委員	
会議録署名委員	佐藤 郁子 委員
会議録作成職員	総務企画課主事 前田 亜矢子
事務局職員	教 育 部 長 松 浦 務 教 育 部 次 長 瀬 能 仁 教 育 部 参 事 丹 野 靖 彦 総 務 企 画 課 長 釜 田 直 樹 施 設 課 長 山 地 吉 明 学 校 教 育 課 長 斎 藤 貴 志 生 涯 学 習 課 長 鍛 冶 貴 宏 第1学校給食共同調理場長 宮 嶋 和 久 第2学校給食共同調理場長 鈴 木 朗 美 術 博 物 館 嘱 託 館 長 荒 川 忠 宏 科 学 セ ン タ ー 嘱 託 館 長 相 内 宏 司 勇 払 公 民 館 副 館 長 佐 藤 直 生 総 務 企 画 課 主 査 下 濱 辰 哉 施 設 課 主 査 南 川 大 樹 生 涯 学 習 課 主 査 木 戸 直 美 総 務 企 画 課 主 事 前 田 亜 矢 子
会議案件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1 委員会開会の宣言（和野教育長）・・・14時00分
2 会議録署名委員の指名（佐藤郁子委員）
3 会議録の承認
（和野教育長） 第1回定例教育委員会（平成29年1月27日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
（一同「はい」の声）
-会議録どおり承認-
4 教育長の報告
（和野教育長） 1月27日の第1回定例教育委員会以降の行事などについて報告いたします。
始めに、インフルエンザの状況であります。新聞報道も逐次ありますのでご承知のことと思いますが、1月24日に注意報が発表され、今年に入ってから学級閉鎖が始まっております。2月9日の時点で小学校は11学級、中学校は0学級の閉鎖で、今シーズンでは延べ25学級の閉鎖となっております。昨年2月9日に1市4町に警報が発表され、2月12日の時点で小学校11学級、中学校29学級が閉鎖となり、延べ88学級の閉鎖となっております。今年は昨年と比べて罹患の規模は小さいようですが、スケートまつり後の罹患の拡大もあるため、インフルエンザに対する徹底した注意喚起及び予防について、そして、日中に解けた雪も朝には凍って通学路も滑

りやすくなり落雪の危険が大きくなりますので、通学路の安全確保について校長会で指示をいたしました。更に、教職員の交通違反・交通事故について現状を説明し、教員の交通安全に対する認識の甘さを指摘し、学校内での交通事故や違反に関する情報の共有と安全運転への更なる指導をお願いしたところであります。

1月31日には、胆振管内社会教育主事等研修会が市立中央図書館会議室で開催されました。胆振管内1市5町から社会教育担当が参加し、札幌市のMIW工房代表である姉帯美和子さんを講師に招いて「学び合いを促進するためのコミュニケーションスキルとは」と題して講演をいただき研修を行なっております。私からは、地方は人口減少や少子高齢化が更に進み、教育を含め行政を行う上で厳しい状況が続いており、人口減少が常態化しないよう知恵を絞らなければならないこと、一方では、住民が豊かで健康な人生を送るために社会教育や生涯学習に求められる課題も大きく、研修の成果を期待すると激励をさせていただきました。

2月8日には、学校保健会主催の学校保健研究大会が教育センターで開催されております。苫小牧市医師会、歯科医師会及び薬剤師会が構成団体となった養護教諭の研究大会であります。今年の大会主題は「未来に生きる心身ともに健康な苫小牧の子どももの育成」とし、「歯と生活習慣」と題して苫小牧市薬剤師会須藤雅博氏による提言を受け、また北海道医療大学名誉教授五十嵐清治氏の講演があり、養護教諭にとっては今後の教育活動に成果の期待できる研究会の内容であったと思います。

次に、学校施設の整備に関して、緑小学校と第16中学校の全体計画がまとまり、先の教育委員会議での説明を経て、2月3日には第16中学校新設、2月6日には緑小学校改築についての市民説明会を開催しております。説明会においては、路上駐車対策や安全確保に関するご意見がありましたものの、計画の変更に関わるご意見はありませんでした。現在、市民からの意見募集を行っております。

また、本日は東小学校及び東中学校の改築に関し、昨年にも保護者等説明会開催前に東中学校敷地に東小学校を移転改築する方向性を示し議論をいただいたところですが、基本的な学校整備の方向性がまとまり地域説明会に臨むことから、内容について

改めて説明させていただきます。

早いもので、3学期も残すところ1か月半であります。この時期の学校経営は公立高校の推薦入試や私立高校の入試、インフルエンザ等の予防をはじめとする児童生徒の健康管理、卒業式や終業式等の学校行事、人事異動、1年間の取組に対するしっかりとした反省に基づく次年度の学校経営計画作成など、短い期間で多くの仕事が集中することになります。また、同時にさまざまな業務で個人情報扱う機会も増えることとなりますので、学校経営にあたっては仕事に流されることなく計画性をもって取り組んでいただきたい旨、校長会でも発信をしたところであります。

本日の委員会は、平成29年度教育行政執行方針や平成29年度教育費予算案など、第9回市議会定例会に向けてご審議いただく案件が多くあります。ご審議をよろしくお願ひ申し上げます。

私からは以上であります。質問等はございますか。

(一同「なし」の声)

5 議 案

第1号 苫小牧市学校管理規則の一部を改正する規則について

(教育部長) -苫小牧市学校管理規則の一部を改正する規則について説明-

(和野教育長) 質疑に付します。質問はございますか。

(一同「なし」の声)

-原案どおり決定-

第2号 平成29年度苫小牧市教育行政執行方針について

(教育部長) -平成29年度苫小牧市教育行政執行方針について説明-

(和野教育長) 質疑に付します。何かございますか。

(上原委員) 昨年から、教育行政執行方針については平成27年に策定した苫小牧市教育大綱を基に作成されており、今年もそのような方針で作成するというお話がありました。5つの方針があり、その方針ごとの施策の数を比べてみたのですが、平成28年度は17項目、平成29年度も17項目ありました。それからいきますと、今年で2年目に入りますので、メリハリをつけた方が良いのではないかという気がいたしました。いろいろな予算や方針を立てる際に総花的にならざるを得ないのはわかるのですが、例えば今年はこのところを重点的にやっていくとか、そのようなことでメリハリを付けるといいますか、そういうところについても少し謳った方が良いような気がいたします。

もう1つは、平成29年度の新規事業はどのようなものがあるのかと思って見たのですが、方針3の施策3「学びの環境づくりの推進」というのがありますが、この中で、平成28年度は5項目だったのが、平成29年度は7項目に増えています。内容も変わっていますし、ここが平成29年度の新規事業ではないだろうかと思っておりますが、その考えで合っているでしょうか。また、他に平成29年度はこのような新規事業があるということであれば、お話をいただきたいと思えます。

もう1点、10ページからの施策3の「学びの環境づくりの推進」の中で、「子どももの貧困対策」というものがあります。これは、先月の定例教育委員会の中でも植木委員の方からお話がありましたが、就学援助を拡大するのであえて入れたということで、今もお話がありました。この中で、貧困対策については大変幅広い対応が必要だ

と思っているのですが、ここに書いてある内容ですと「就学援助制度の周知」とそれに併せて「入学前の新入学用品費の支給」、それから「学校と関係機関の連携を行って相談体制の充実を図る」という2つに分かれると思います。就学援助制度の中身も大事ですが、私が一番大事だと思うのは、学校と関係機関の連携の方だという気がいたします。それで、関係機関との連携というのはどのような連携を考えておられるのでしょうか。恐らく、市役所内部の連携も必要でしょうし、民間のいろいろな機関との連携も必要でしょうし、あるいは地域等まで含まれるのかどうか、この関係機関との連携ということをどのような範囲内で考えておられるのか、その点についてお聞かせいただきたいと思います。

(教育部参事) 最後の方に出てきました貧困対策についてお答えいたします。貧困その他を含めて生活上の困難があり、子供を育てていくことに困り感を持っている家庭についてどのようにサポートをするかということで、主に想定している関係機関は、子育て支援課が中心になると思いますが、スクールソーシャルワーカーを活用して学校と子育て支援課とを繋げて、相談体制の充実を図ることとしております。

また、場合によっては、生活保護等について理解が進んでいないご家庭もございますので、生活支援課との連携も図るよう進めているところでございます。そういった形で、生活に困窮している家庭を発見した場合、即座に関係部署に繋げていけるような体制をスクールソーシャルワーカーとつくっていきたいと考えております。

(教育部長) 上原委員の方からメリハリというお話がありましたが、総花的にならざるを得ないというところについては、ご理解いただきたいと思います。

その中で、お話にありました新規事業としては、例えば2ページの「小学校外国語活動巡回指導教員1名」が平成29年度からとなります。また、6ページの「苫小牧市道徳教育推進計画」についても、来年度に策定するとのことで新たな取組となります。また、先ほどお話のありました「子どもの貧困対策」のところ、10ページの就学援助の新入学用品費の入学前支給について、中学校につきましては今年度末から取り組んでおりますが、来年度は小学校に入学する児童につきましても入学前の支給

を始める予定です。また、こちらには記載しておりませんが、PTA会費、クラブ活動費及び生徒会費のいわゆる3項目につきましても新年度から対応する予定でございます。これにつきましては、先般の議会においても既にお答えしているということもございまして、詳しい説明については記載しておりません。「必要とする時期に適切な就学援助ができるよう努めてまいります」という中に含まれているというふうにご理解いただきたいと思います。後は、11ページの「施設の整備」について、今年の新規事業・継続事業を含めて、第16中学校の新設や拓進小学校の増築等につきましては新規事業とのことで盛り込んでおります。大体の項目が、これまでの取り組みについて更に充実を図るという形の文言になっておりますので、目新しいというか、これが今年が目玉ですというのは、なかなかお答えできないことをご理解いただきたいと思います。

(和野教育長) 私からお話させていただきたいのですが、今年が目玉だと思っていると訳でもないのですが、中学校区にいろいろな組織がありまして、それが重複していたりするので、少し学校経営に絡めた組織を再編し、それによって子供たちの指導と同時に教育課程をどのようにしていこうかということで、小中連携教育に一步踏み出すような形も、少し前向きにやっっていこうと考えております。

(教育部参事) 今まで、エリア会議と名前の付くものは、特別支援教育エリア会議や学力向上エリア会議等の複数のエリア会議がございまして、それぞれがバラバラに機能していたという面がございました。それを中学校区で整理し、全て合わせて学校教育力だろうということで「学校教育力向上エリア会議」としまして、そのトップに校長先生と教頭先生で構成するエリア経営会議というものを配置し、地域の中学校区の問題として子供たちの課題を捉えてどのように改善していくかということで、その中に「学力向上」や「特別支援」といった柱を設けて解決していこうというふうに整理をいたしました。それが、今回大きく変わったところでございます。

(上原委員) 大体わかりました。子供の貧困対策の件なのですが、以前にも質問させていただいたことがあるのですが、大変大きな問題だと思えます。貧困率の数字等

が議会でも示されましたが、聞いてびっくりいたしました。それだけに深刻な問題だ
とと思っていますし、最近全国的にもそうですが、貧困の連鎖が広がらなければ良い
なというお話もございます。貧困対策は大変重要な施策ではないかという気がしてお
ります。その中で、先ほど答弁があったのですが、主に連携を取られるのは市役所内
部の関連ある部署とのお話でした。併せて、民間のいろいろと動き出している部分、
例えば食事の関係ですとか、そこら辺の情報交換等も含めて、あるいは地域で押さえ
ていることや地域の方が思っていることもあると思いますので、いろいろと多方面に
広げて関係機関という捉え方をして、より対策を取っていくことができればと思っ
ています。もちろん、教育委員会だけの問題ではありませんので、そういう面で行きま
すと他の部署との連携も大事だと思うのですが、相談体制といいますか、あるいは数
字の基になるデータといいますか、そういうものも含めて幅広くやっていく必要があ
るのではないかと考えていますが、その辺についてはどうでしょうか。

(学校教育課長) 今まで、教育は教育、福祉は福祉というように、縦割りになっ
ている部分もあったのではないかと思います。今は、就学援助についても拡大するとい
う方向の中で、福祉の方と連携とまではいきませんが情報交換をしながら、いろい
ろと案内を置かせていただく等しておりますので、今後も各課と連携しながら進めてま
いりたいと思っております。

(和野教育長) 現行制度の中で、教育委員会としてできることはやる、その中で支
援を拡大できるものはするし、教育資産の活用についても一生懸命やろうということ
だと思います。ただ、難しいところで、福祉の部分というのはどうしても存在します。
貧困については福祉に関わるものがあるので、我々が今できるのは、福祉の事業を教
育委員会でやるということではなく、福祉の事業をどう学校に案内していくか、こう
いう制度があるので活用してはどうかというアドバイスや情報提供をするということ
を最初にやるべきではないかと思います。その中で、これは教育でやるべきものだと
いうことであれば、私どもに予算を付けて、福祉とも連携を取って拡大していくこと
になります。今の段階で、こども食堂等もありますし、子供たちを支援するNPO等

も出てきておりますので、そういったものも情報として少し集めて、学校に提供しようとは思っていますが、恐らくそれぞれの学校で情報は十分に持っていて、それぞれ活用しているというふうに思っています。いろいろな動きを学校に提供していくのが、私どもの仕事だと思っています。

(上原委員) わかりました。

(和野教育長) 他にございますか。

(佐藤郁子委員) 全体を通して見たときに、具体的な内容でわかりやすい部分とそうではない部分があるような気がしましたので、もし具体的に入れるのであれば、そうしていただいた方が、読んだ場合に質問がないというか良くわかるのではないかと思います。それから、言葉について、最初と後ろの方とではだんだんと変わってきているので、統一するといえますか、わかりやすいように付け加えた方が、読んでより良く理解できるような気がします。

例えば、先ほど上原委員の方からご指摘のありました11ページの関係機関も、教育とは別ですが、実際問題として窓口対応ができていないという苦情につながりますので、関係機関の子育て支援課であったり、福祉のことであったり、具体的なところをある程度入れておくと、内容も良く理解できるようになるのではないかと思います。全体的に使われている言葉で、「円滑に接続するように」というのがいろいろなところで使われているのですが、その接続するものが授業のところと学習のところに分かれていたりするものですから、そこも統一してつくられた方が良いのではないかと思います。「小中の授業」や「小中の学習」のところも「・」が入っていたり、連携で終わっていたり、小さなことなのですが別物のように読んでしまいますので、同じものであれば統一した方がわかりやすいと思いますので、ここは1つお願いしたいということです。

その中で、具体的なものの1つとして、9ページのアレルギーもそうなのですが、「卵の除去」等と具体的に書いてしまっているものと、全く触れていないようなものもあるのですが、例えば卵であれば卵だけということになってしまいますので、それ

を「アレルゲン」という言葉に置き換えるとか、6ページの「こころの授業」について「がん教育や献血学習等」というふうに具体的に入っていますので、これも、最近では命に関して授業を行うものであれば国内外のものがテーマになってくると思いますので、その具体的な内容も、広げるのか小さくするのかというところで統一された方が読んでいる方も広がりやすいと思いますので、もう一度チェックをしていただければ、あまり混乱のないように思います。

それから、13ページの一斉メール配信システムの活用のところなのですが、家庭教育の情報誌の発行というのが具体的にどのようなものなのか記載がなく、その後でまた家庭教育に関する情報提供を行うというふうになっておりますので、この辺りは具体的に情報誌があるのであれば、その名前を書けばわかりやすいのではないかと思います。それから、継続して連携するのか、学習なのか授業なのかというところも、恐らく書いているうちにいろいろと変わってきてわからなくなっている部分もあると思いますので、もう一度ご確認いただきたいと思います。

14ページの生涯学習についてなのですが、生涯学習社会で目指すものというのは、生涯学習の方でキーワードにしているものなのか、社会教育の方でキーワードにしているものなのか、「学べる、生かせる、つながる」と括弧書きになっていれば1つのキーワードとして使われているというふうに理解しますので、「いつでも、どこでも、誰でも」といったように生涯学習も変わってきていますので、確認して今使われているようなところを括弧の中に入れていただければ私もよく理解できますので、よろしくお願いいたします。

もう1つ、17ページの最後の「むすびに」のところなのですが、「社会づくりに貢献していくことのできる人間を育成する」と書いてありますが、これは「人間」なのか「人」なのかというところで、その辺りも文言を統一していただければ、誤解のない内容になるのではないかと思います。

具体的にするかしないかというところが、具体的に書いてある部分とそうではない部分で随分温度差があるようですので、できるだけバランス良く書いていただければ

<p>と思います。質問というより、お願いでございます。</p>
<p>(教育部長) 限られた時間の中で17, 8ページにまとめたいということで、できるだけ簡単に書けるところは簡単に書いております。「関係機関」というものも確かにたくさん出てきますし、「警察署等の関係機関」と一部だけ書いたりもしておりますので、今ご指摘の点につきましては、今後の読み合わせの中で整理させていただきたいと思います。</p>
<p>(佐藤郁子委員) 文言統一も含めてよろしくお願ひいたします。</p>
<p>(和野教育長) 他にございますか。</p>
<p>(一同「なし」の声)</p>
<p>(和野教育長) 質疑がなければ、今のご指摘等も含めながら再度修正をして教育行政執行方針としたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。</p>
<p>-原案どおり決定-</p>
<p>第3号 平成28年度教育費補正予算について</p>
<p>(教育部次長) -平成28年度教育費補正予算について説明-</p>
<p>(和野教育長) 質疑に付します。何かございますか。</p>
<p>(一同「なし」の声)</p>
<p>-原案どおり決定-</p>

第4号 平成29年度教育費予算について
(教育部次長) -平成29年度教育費予算について説明-
(和野教育長) 質疑に付します。何かございますか。
(上原委員) 本当は窓口で聞けば良かったのかも知れないのですが、時間がなくてこの場で聞くことをお許しいただければと思います。
この予算編成につきましては、教育行政執行方針に沿ってつくられたのではないかと考えております。その観点からちょっと見てみたのですが、執行方針にあって予算付けがないものがあります。それらについてどのような対応をされたのか確認したいのですが、学校給食におけるアレルギー対応食の提供事業、これは平成27年度から主要事業ということで始まったと思うのですが、平成27年度は92万5,000円が、平成28年度は100万円が、それぞれ予算措置されています。平成29年度はどこを探しても出てこないの、恐らく経常費の中に入れられたのかなという気はするのですが、執行方針の中には「アレルギー対応食の対象校を拡大して実施する」と書いてありますので、その未計上の理由について教えていただきたいと思います。
それから、社会教育総務費の歴史的文化遺産整備事業費、これも執行方針の方針5「郷土の良さを生かした潤いのある生涯学習の推進」の中の、施策3「豊かな心や生きがいを育てる地域コミュニティ形成の促進」ということで、その中の文言を見ると、「本市に点在する歴史的文化遺産の保存・活用を図り」とあるので、このことを言っているのかと思ったのですが、説明がなかったものですから、内容について教えていただきたいと思います。
それと、教育指導費の特別支援教育支援員設置事業費が3,718万1,000円計上されています。これは、平成27年度、平成28年度、それから平成29年度と相当な額が増えてきています。恐らく増員をされるのだらうと思いますが、「特別支援教育支援員と介添員の適正な配置に努める」と執行方針に書いてありますので、その

部分のことを言っておられるのかなと思います。平成28年度の実績で支援員が何人、介添員が何人、それから平成29年度の予算で予定している人数は支援員が何人で介添員が何人なのか教えていただきたいと思いますが、同じようなことなのですが、次のページに学校司書配置事業費ということで、こちらの方も執行方針の中に「学校司書の配置を拡大」と書いてありますから、このことだろうと思いますが、平成27年度の予算では134万7,000円、平成28年度は420万6,000円、平成29年度は倍近い794万4,000円が計上されています。平成27年度から始まった新規事業ですが、3年目ですので、先ほどもちょっとお伺いしたように、平成28年度の実績の人数がわかれば教えていただきたいのと、今年度の予算で予定している人数はどれくらいになるのか、細かい数字で申し訳ありませんが教えていただきたいと思います。

(第1学校給食共同調理場長) アレルギー対応食について予算が計上されていない理由でございますが、平成27年度、平成28年度と予算を計上したのは備品を購入したのと、対象の児童生徒に配送するのに必要な食缶や食器等を購入するため、それらにつきましてはある程度の数が買えましたので、平成29年度には予算を計上しておりません。若干必要なものは出てくると思いますが、経常費の中で対応可能ではないかとのことで、今回は予算を計上しなかったということです。

(生涯学習課長) 歴史的文化遺産整備事業費についてのご質問ですが、上原委員ご指摘のとおり、方針5の施策3の中の最後の部分が該当いたします。この事業は、経緯をご説明いたしますと、平成27年9月に植苗地区のまちかどミーティングにおきまして、御前水とそこに隣接している美々鹿肉缶詰工場跡地を公園化していただけないかという要望が出まして、その際に、市としては文化財の整備・保存を行って次世代に歴史的事実を引き継ぐ取組をしたいとのことで回答をしております。それを受けまして、文化財の冊子などを更新する作業を行っておりますが、来年度は既存の老朽化した看板等を撤去して最新のものにして、訪れた方々が気持ち良く見学でき、なおかつ理解を深められることを主眼に整備をしたいと考えております。新しい看板に交

換してその中にQRコードを設置し、そのQRコードを手持ちのスマートフォンなどのデバイスで読み取ってホームページへリンクさせ、見学者にとってより理解しやすい仕組みについて取組を進めたいと思っております。それで、今回予算計上しているものにつきましては、地域要望の多い御前水と美々鹿肉缶詰工場跡地の看板の更新を行いたいと考えております。

(学校教育課長) 特別支援教育支援員と介添員の配置人数についてお答えしたいと思いますが、申し訳ございません、今手元に細かい数字がございませんので、現在の数字を正確にお答えすることができませんが、支援員も介添員も3名程増員を凶る予定でございます。後ほど、今年度と来年度の配置人数についてお知らせさせていただきます。学校司書につきましては、平成28年度は6名を市の臨時職員という形で任用し、10校に配置しています。平成29年度につきましては10名の任用を考えておりまして、20校に配置する予定となっております。現在、道費で苫小牧東小学校に配置しながら3校を巡回している学校司書教諭がおりますので、これで来年度は全校に配置という形になろうかと思っております。

(上原委員) 数字は後で結構ですので、教えてください。それで、先ほどの学校給食についてなのですが、アレルギー対応食の提供はやらないということではなくて、2年間の予算計上は備品等の購入費用で、引き続きアレルギー対応食は対象校を拡大して実施していくということなのですね。

それから、文化財の関係なのですが、歴史的文化遺産整備事業について、答弁をお聞きして中身については大体わかりました。これにつきましては、もう少しいろいろなことができるのではないかという気がしておりまして、例えば、市内に埋もれている文化的な遺産というものが相当数あるように聞いています。具体的には知りませんが、そういった関係者の方からこのような物はどうかというところで、その指定うんぬんという問題もあるとは思いますが、そこら辺まで含めて、苫小牧市には文化的な遺産が相当あると思うのですが、それについて調査をすとか、そういったことについては考えておられますか。

<p>(教育部長) 生涯学習課と美術博物館で、例えば戦争の遺構や王子製紙をはじめとする建物遺産等につきましては、既にリストのようなものが出来ておりまして、そういったものをこれから何らかの形、例えば冊子等でご紹介する機会については私どもも検討しておりまして、来年度の予算の中では、取りあえず先ほどの植苗地区の看板にQRコードを設置して、市民が解説文を見られるような形を取っていきたいということです。他にも残されたものがございますので、その後の順位付け等についてはこれから検討させていただきたいと思っております。新たに何かをするというところまでは我々も聞いておりませんが、取りあえずまだまだ一般的に市民が知らない、美術博物館の学芸員は押さえているけれどなかなか市民の目には触れていないようなものもございますので、そういったものを広く周知できるように、冊子の検討等につきましては随時進めていきたいと考えております。</p>
<p>(上原委員) わかりました。</p>
<p>(和野教育長) 他にございますか。質疑がないようであれば、原案どおり決定することとしてよろしいでしょうか。</p>
<p>(一同「はい」の声)</p>
<p>-原案どおり決定-</p>
<p>6 協 議</p>
<p>(和野教育長) 協議事項をお持ちの方はいらっしゃいますか。</p>
<p>(一同「なし」の声)</p>

7 その他
(1) 平成29年度苫小牧市学校給食会会計予算(案)について
(第1学校給食共同調理場長) -平成29年度苫小牧市学校給食会会計予算(案)について説明-
(和野教育長) 質疑に付します。何かございますか。
(上原委員) 数点についてお伺いたします。1点目は、収納率の問題です。平成27年度、28年度と予算の中では、98パーセントで予算措置がされていました。平成29年度は初めて98.5パーセントということで予算が示された訳ですが、今説明がありましたように、0.5パーセント上がった理由は平成28年度の実績を参考にして上げたとのことですが、そのような認識で良いのかどうか確認をしたいと思います。
それから、平成27年度には確か収納率は実績として98.8パーセント近くまでいっていたと思います。そういう面からいくと、決して無理な数字ではないのかなという気がしていますが、そうしますと、予算上の収納率というのはある程度高めに設定した方が、やる気が出るというか良い方向に行くのではないかなと思っていた訳ですが、初めて0.5パーセント上がりました。今回は、恐らく2か年か3か年の実績を参考にして上げられたと思うのですが、今後もそのようなことをされるのかどうか教えてください。
もう1つは、支出の方の徴収の経費についてです。先ほどもお話がありましたように、シルバー人材センターに委託してやっている訳ですが、予算措置については年々増加傾向にあるようです。それで、この理解の仕方なのですが、恐らく経費が増えるということは、それに関わる人が増えているのかなと思っています。徴収をされる相手と申しますか、徴収をされる側の数が増えているのかどうか、もしそうだとすれば、

増えている理由は何なのか、そこら辺を教えてくださいたいと思います。

(第1学校給食共同調理場長) 予算上の収納率の見方なのですが、確かに収納率は年々向上しております。ただ、98.7パーセント以上はなかなか難しい、最後の手段がなかなか取れないという状況があるものですから、98.5パーセントに抑えました。ただ、現状ですと、昨年同時期と比べて0.1パーセントですが収納率が高い状態で推移しておりますので、何とかこの辺で予算の方は見ておこうかなと考えております。高めの設定というお話もございましたが、これ以上は次の一手がなかなか見つからないということで、収納担当も困っているのですが、臨戸訪問ということで、回数を重ねる中で収納の方は頑張っていきたいということです。

徴収経費が増額しているのは、収納率を上げるために臨戸訪問を繰り返しております。その中で銀行の口座引き落としの手続きをお願いしているのですが、なかなか応じてもらえない、銀行に直接納めに行く時間もないという形になると、直接徴収に行きますという交渉になってくるものですから、そういう約束を取り付けた中で、委託しているシルバー人材センターの職員に時間・場所を伝えてお願いするということが、そういった個別に徴収に行く機会が増えているのは事実です。そのため、徴収員の委託料が増えてきているという状況にあります。以前は2人の徴収員で対応してきたのですが、対象人数が増えてきたため、昨年からは3人体制で徴収をお願いしております。

(上原委員) 収納率についてはわかりました。徴収経費の方なのですが、要するに徴収される対象者が増えているということではなくて、対象者が1回行っても駄目で、何回も回数を重ねて臨戸訪問をするので経費が増えたということですね。そうすると、1回で済むところもあるし、何回行っても駄目なところもあるしということで、言葉は良いかどうかわかりませんが、悪質な、なかなか払ってもらえないところが増えているということなのではないでしょうか。

(第1学校給食共同調理場長) シルバー人材センターをお願いしているのは徴収だけで、臨戸訪問ですとか徴収の約束を取り付けるところは、第1給食センターに嘱託

職員が1名配置されているものですから、その職員が滞納者のところに何度も足を運
んで徴収のお願いをして、時間と約束を取り付けたところでシルバー人材センターに
お願いするというような形になっておりますので、シルバー人材センターの方で何度
も足を運ぶということはありません。時間と場所を指定して行って貰うというような
形になります。何度も行ってもなかなか支払っていただけない、その中で経済的な困
窮について話す方もいるのですが、そういった場合には私どもは就学援助という制度
を持っているということで、その申請をして欲しいとか、就学援助制度についての説
明はするのですが、今度は面倒だとのことでなかなか行っていただけないという状況
がありまして、そういった制度についても積極的に説明しながら結びつける方法もあ
りますし、分納でも良いので何とか収めて欲しいという約束を取り付けていくという
方法で、苦勞している状況です。
(上原委員) わかりました。
(教育部長) 直接銀行で収めてもらうのが一番手っ取り早いのですが、なかなかそ
ういう方がいなくて、集金に行つてやつと支払っていただけるという方が増えている
ということです。収納率が上がると徴収業務の委託料も上がるというようなジレンマ
がありますが、それ以上に収納はしっかりありますので、効果は出ていると考えてお
ります。
(上原委員) 危惧をするのは、これが児童生徒に与える影響についてです。いろい
ろな方から以前話を聞いたことがあるのですが、子供同士で給食費を払って食べてい
るとか食べていないとか、そういった話が出てきている、そんなこともあります。そ
れで、家庭に行くと、うちの子供には食べさせないでくださいとか、そのような対応
もあると聞いており、それは保護者の問題ですが、未納に関してはそういったいろい
ろな問題が発生するものですから、大変危惧をしているのですが、そこら辺のことを
これからも注意していく必要があるのかなという気がしています。これは、私が感じ
たことになりましたが。
(教育部長) 本市では、学校で徴収するということがなくなりましたので、子供た

<p>ちの間でこの子は納めている、納めていないというところはわからないようになって います。嘱託職員が一所懸命各家庭を回って、収納率を上げるように取り組んできて、 ここ何年かはずっと収納率が良くなってきている現状でございますので、やはり、足 しげく通って、保護者の皆様に給食費の大切さを認識していただいて、生活困窮状態 にあっても分割でも良いのでしっかり納めていただくということを基本としてやって いく以外にないのかなと思っております。</p>
<p>(上原委員) わかりました。</p>
<p>(和野教育長) 他にございますか。なければ、質疑を終結することといたします。</p>
<p>(2) 苫小牧東小学校及び苫小牧東中学校改築に伴う保護者等住民説明会の開催につ いて</p>
<p>(教育部長) -苫小牧東小学校及び苫小牧東中学校改築に伴う保護者等住民説明会 の開催について説明-</p>
<p>(和野教育長) 質疑に付します。何かございますか。</p>
<p>(一同「なし」の声)</p>
<p>(和野教育長) 質疑がないようですので、その他(2) 苫小牧東小学校及び苫小牧 東中学校改築に伴う保護者等住民説明会の開催についての質疑を終結いたします。</p>
<p>8 委員会閉会の宣言 (和野教育長)・・・15時29分</p>